

「ブラッド」 ★★

2009（平成21）年7月18日鑑賞<ユウラク座>

監督：下山天
企画・原作・脚本：武知鎮典
美夜子ロジュンベルク／杉本彩
黒沼右京、沖田総司／要潤
星野一正（刑事）／津田寛治
横地（右京の部下）／松田悟志
ブリギッテ（メイド）／山口小夜
田代係長（星野の上司）／ガッツ石松
2009年・日本映画・85分
配給／ゼアリズエンタープライズ

<公訴時効廃止の議論と対比しながら>

法務省が2009年7月20日に発表した「最終報告」は、「殺人など最高刑が死刑である罪の公訴時効を廃止する」という方針を打ち出したが、これは犯罪被害者の声を最大限尊重したものだ。DNA鑑定が進歩などを含めてその是非は難しい問題だから、きちんとした議論が必要だ。

ここでそれを議論するつもりはないが、本作の一方の主人公である刑事の星野一正（津田寛治）は、今消滅時効寸前のある猟奇殺人事件を追っていた。星野の上司である田代係長（ガッツ石松）にとっては、本来謹慎しておくべき星野がそんな風に動き回ると迷惑なのだが、生来真面目な星野は事件記録を掘り起こしていくうち、遂にキーウーマンである美夜子ロジュンベルク（杉本彩）の屋敷を訪れることに。

<杉本彩がバンパイア映画に挑戦！>

近時はアメリカでも『トワイライト／初恋』（08年）が大ヒットし、日本でもバンパイアを売りにした中山優馬と加藤ローサ主演のテレビドラマ『恋して悪魔～ヴァンパイア☆ボーイ～』がヒット中・・・？そんな時代状況を受けて（？）、杉本彩がバンパイア映画に挑戦！なるほど、「エロスのミューズ・杉本彩が獣になる」とはそういう意味？

メイドのブリギッテ（山口小夜）の案内で豪華な応接間に通された星野は、何とも妖艶な美夜子の姿にビックリだが、美夜子が牙をむくのはいつ？

美夜子との話し合いの中、美夜子の口からあの猟奇殺人事件の犯人は黒沼右京（要潤）だと告げられたから、星野はさらにビックリ？調べてみると、この黒沼は政財界に隠然たる力を持つ謎の男らしいが、彼は今日も生贄にされた美少女から血を・・・。さて、こいつの本性は一体ナニ？

<R-15指定は喜ばしい？>

杉本彩主演の官能映画と聞けば、第1に頭に浮ぶのが『花と蛇』（04年）（『シネマルーム4』156頁参照）、そして『花と蛇2 パリ／静子』（05年）（『シネマルーム7』324頁参照）。これは私の目にはすばらしい作品で、いずれも星4つだった。しかし、その後の『JOHNEN 定の愛』（08年）は本作と同じ武知鎮典氏の企画・原作・脚本だったが、私の評価は本作と同じように星2つとイマイチ。そこでは、「阿部定（杉本彩）と石田吉蔵（中山一也）との絡みは、かつての日活ロマンポルノの迫力にも及ばない平凡なもの・・・？隠すべきところは隠して、腰を動かすだけ。唯一迫力があるのは杉本彩のあえぎ声、というのはいかがなもの・・・？」と書いた（『シネマルーム20』102頁参照）。

しかして本作のパンフレットには、R-18指定ではなくR-15指定を勝ち取ったと誇らしく書かれている。しかし、15歳以上が観てもいい映画と判定されたということは、それだけH度が落ちたということ。したがって、R-18指定ではなくR-15指定になったことは、私にとってはちっとも喜ばしいことではないのだが・・・。

<杉本彩の官能美も賞味期限切れ？>

セクシー女優川島なお美が48歳にして結婚し、近時『熟婚のすすめ』（扶桑社）を出版しているのに対し、杉本彩は2003年に離婚。ネット情報によると、その4年前からセックスレスだったとのこと。そんな杉本彩も1968年7月生まれだから、既に40歳を超えたが、さてその肉体美と官能美は？

そんなエロ心で本作を観ると、期待を裏切られること確実？だって、本格的ベッドシーン（？）は1度だけで、それ以外に2度登場するベッドシーンはイメージだけなのだから。やっぱり、杉本彩の官能美のピークは『花と蛇』で、その後は徐々に後退し、失礼ながら本作では既に賞味期限切れ？

<沖田総司の発想は『IZO』と同じ？>

武知鎮典が企画・原作・脚本し、三池崇史が監督した『IZO』（04年）は、この世とは違う位相の世界、すなわち過去・現在・未来を結ぶ空間の中を駆け抜けるのが特徴。また、その位相の世界を把握している権力の中核である貴族院を支配する男たちに対してIZOが怨念や怒りをぶつけ、斬って斬って斬りまくるのが持ち味だったが、私にはワケわからん！（『シネマルーム6』222頁参照）だった。

同じ武知鎮典の企画・原作・脚本で、下山天が監督した本作も、冒頭に登場する時代劇のシーンはまさに『IZO』のテイストと同じ。つまり、時空を超えたストーリー展開が武知テイストの真髄？もっとも、本作はバンパイア映画だから、時空を超えることにそれなりの意味はあるが、別に沖田総司を登場させなくてもいいのでは？そこで思い切ってネタばらしをすれば、黒沼は美夜子によって永遠の命を与えられた沖田総司というわけだ。

<本作のテーマは？看板に偽りあり？>

そうなると、本作のホントのテーマは美夜子が新たに星野に対して永遠の命を与えたために否応なく起きる、星野と黒沼との確執と対決。なるほど、そうなると本作は杉本彩のエロス満載の官能映画ではなく、バンパイアの女王美夜子に扮する杉本彩をめぐる展開される、男同士のアクション映画？

そう考えると、ラストでの星野と黒沼との対決アクションが本作のクライマックスシーンなんだと納得できるのだが、それならそうと、最初から予告してくれなければ・・・？これでは、看板に偽りあり？